

所属・氏名（ 保健医療学部 医療技術学科 氏名：国分寺 晃 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) =Laboratory Practice= ミミッキング抗体への対応	共著	2015年3月	医学書院, 検査と技術, Vol.43, No.3 ISSN 0301-2611	まとめられていなかったミミッキング抗体について、その特性と対応方法について述べた。(担当:pp258-263, 国分寺晃)
2 (著書) 特集【症例シミュレーションで整理する輸血検査の進め方ー当直時の「もしも」に備えてー】血液型の判定に窮する症例	共著	2015年11月	医歯薬出版, MEDICAL TECHNOLOGY, 553,2015, Vol.43, No.11 ISSN 0389-1887	血液型検査の判定に窮するであろう症例を提示しその原因や適切な対応、緊急時における適切な初期判断・検査および製剤準備等について述べた。(担当:pp1138-1143, 国分寺晃)
3 (著書) =輸血副作用の把握と対応=輸血副作用の原因と分類, 輸血副作用の症状と診断, アレルギー反応・血漿蛋白質抗体, 細菌感染症	共著	2016年1月	丸善出版, JAMT 技術教本シリーズ『輸血・移植検査 技術教本』 ISBN 978-4-621-08973-6	輸血検査や移植免疫に関する基礎知識と手技, 実務作業について解説した技術書であり, 輸血副作用の把握と対応等について述べた。(担当: pp228-231, 243-246, 国分寺晃)
4 (著書) 不規則抗体の種類と性状. 不規則抗体の臨床的意義.	共著	2017年9月	医歯薬出版, スタンダード輸血検査テキスト ISBN 978-4-263-22284-3	輸血用血液製剤の選択, 溶血性輸血副作用, 胎児・新生児溶血性疾患等について述べた。(担当:pp84-88, 89-93, 国分寺晃)
5 (著書) 不規則抗体の種類と臨床的意義を整理しよう	共著	2018年3月	医歯薬出版, MEDICAL TECHNOLOGY, 2018, Vol.46, No.3 ISSN 0389-1887	溶血を引き起こす原因となる不規則抗体, 副作用の臨床症状等について述べた。(担当: pp 216-223, 国分寺晃)
6 (著書) 輸血療法(輸血検査)における医療関係者の責務と管理体制「医療関係者の責務, 輸血の管理体制の在り方, 不適合輸血を防ぐための検査と血液準備」, 外部精度管理調査(外部精度評価)から見える対策「日臨技臨床検査精度管理調査の傾向と必要な対策」	共著	2020年11月	じほう, JAMT 技術教本シリーズ 『品質保証・精度管理教本』 ISBN 978-4-8407-5326-5	輸血検査の目的は, 安全かつ効果的な輸血療法を過誤なく実施することである。そのため, 輸血分野における「品質保証と精度管理」は, 検査の正確性に留まらず, 輸血用血液製剤の管理や輸血後の副反応への対応(輸血後管理)を含めた“輸血療法”全般を適正に行うことを目的に整備することが重要である。輸血療法(輸血検査)における医療関係者の責務と管理体制, 外部精度管理調査から見える対策について述べた。(担当:pp.310-324, 国分寺晃)
7 (著書) 不規則抗体の種類と臨床的意義を整理する	共著	2020年12月	医歯薬出版, MEDICAL TECHNOLOGY, 『輸血検査 苦手克服 BOOK』, Vol.48, No.13(臨時増刊) ISSN 0389-1887	不規則抗体の中でも「臨床的に意義のある抗体」とは, 対応した抗原を有する赤血球を生体内で破壊し, 溶血性輸血反応の原因となる赤血球抗体である。溶血性輸血反応を防止するために重要となる, 不規則抗体の種類と臨床的意義, 副作用の臨床症状, 輸血用血液製剤の選択について述べた。(担当: pp.1390-1400, 国分寺晃)
8 (著書) 『赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン』改訂3版のポイント	共著	2021年4月	医歯薬出版, MEDICAL TECHNOLOGY, Vol.49, No.4 ISSN 0389-1887	今回のガイドライン(改訂3版)では, 乳児の輸血検査にかかわる点を中心に改訂作業を行った。改訂箇所は多数あるため, 乳児における ABO 血液型検査, および乳児における不規則抗体スクリーニングと交差適合試験の省略を中心に重要なポイントを述べた。(担当:pp.328-330, 国分寺晃)
9 (研究報告) 輸血検査, 輸血検査サーベイ報告	共著	2015年1月	平成26年度 日臨技臨床検査精度管理調査報告書。	検体検査の精度管理の方法である外部精度管理調査(外部精度評価)として, 日本臨床衛生検査技師会において, 全国規模で精度管理調査を行い, 2,400施設以上の施設を対象に輸血分野の解析と評価判定を行った。さらに, 実態調査も行い現状についての解析を行った。(pp.21-22, CD(8) pp.1-59, 国分寺晃 , 西岡純子, 三浦邦彦, 奥田誠)
10 (研究報告) 「赤血球型(赤血球系)検査のガイドライン 改訂のポイント」血液型(ABO, RhD)検査について	共著	2015年8月	日本輸血細胞治療学会-記録集-	新たに追加した ABO および RhD 血液型検査の項目を中心に, 「赤血球型(赤血球系)検査のガイドライン 改訂のポイント」について, 我が国の輸血検査の現状を検討した。(pp.21-24, 国分寺晃)
11 (研究報告) 輸血検査, 輸血検査サーベイ報告	共著	2016年1月	平成27年度 日臨技臨床検査精度管理調査報告書。	全国規模で精度管理調査と実態調査の解析を行った。(pp.27-28, CD(8) pp.1-63, 国分寺晃 , 西岡純子, 三浦邦彦, 奥田誠)
12 (ガイドライン) 赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂2版)	共著	2016年12月	日本輸血細胞治療学会雑誌, Vol.62, No.6 ISSN 1881-3011	最近の造血器腫瘍を含む癌に対する様々な分子標的治療薬の導入への対応を含めた改訂を行った。(pp651-663, 奥田誠, 国分寺晃 , 他)
13 (研究報告) 輸血検査, 輸血検査サーベイ報告	共著	2017年1月	平成28年度 日臨技臨床検査精度管理調査報告書。	全国規模で精度管理調査と実態調査の解析を行った。(pp.27-28, CD(8) pp.1-60, 国分寺晃 , 西岡純子, 三浦邦彦)
14 (学術論文) 吸光度測定により血液型検査を行う新しい方法	共著	2017年3月	医療工学雑誌, 第11号 ISSN 1881-9265	判定者の熟練度の差や技術的ミスを排した新たな血液型検査法の開発を目指し, 検討を行った。(pp1-7, 高下和樹, 清水希功, 国分寺晃)
15 (研究報告) 平成28年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	共著	2017年3月	平成28年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	臨床検査データが様々な疾病の診断や, 健康管理に有効に活用されるためには, そのデータの信頼性が十分に保証される必要がある。全国規模の臨床検査データ標準化を目的に標準化委員として活動を行った報告書である。
16 (学術論文) 副作用防止を目的とした輸血用血液製剤中のハプトグロビン洗浄除去の検討	共著	2017年10月	日本輸血細胞治療学会雑誌, Vol.63, No.5 ISSN 1881-3011	輸血後, アナフィラキシーショックを起こしたHp欠損患者2人への輸血対応について検討した。(pp700-707, 坊池義浩, 国分寺晃 , 他)
17 (研究報告) 輸血検査, 輸血検査サーベイ報告	共著	2018年1月	平成29年度 日臨技臨床検査精度管理調査報告書。	全国規模で精度管理調査と実態調査の解析を行った。(pp.33-34, CD(8) pp.1-68, 国分寺晃 , 福吉葉子, 西岡純子, 三浦邦彦)
18 (研究報告) 県内の新鮮凍結血漿使用適正化を見据えた使用状況と患者予後の検証	共著	2018年3月	厚生労働省 平成29年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業報告書(広島県合同輸血療法委員会)	FFPの使用理由とその臨床的効果, 厚生労働省「血液製剤の使用指針」検証等を研究の目的として分析した。(pp.1-48, 藤井輝久, 岩戸康治, 国分寺晃 , 他)
19 (研究報告) 平成29年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	共著	2018年3月	平成29年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	臨床検査データが様々な疾病の診断や, 健康管理に有効に活用されるためには, そのデータの信頼性が十分に保証される必要がある。全国規模の臨床検査データ標準化を目的に標準化委員として活動を行った報告書である。
20 (研究報告) 輸血検査, 輸血検査サーベイ報告	共著	2019年1月	平成30年度 日臨技臨床検査精度管理調査報告書。	全国規模で精度管理調査と実態調査の解析を行った。(pp.32-33, CD(8) pp.1-61, 国分寺晃 , 福吉葉子, 西岡純子, 三浦邦彦)
21 (研究報告) 平成30年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	共著	2019年3月	平成30年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	臨床検査データが様々な疾病の診断や, 健康管理に有効に活用されるためには, そのデータの信頼性が十分に保証される必要がある。全国規模の臨床検査データ標準化を目的に標準化委員として活動を行った報告書である。
22 (研究報告) 新鮮凍結血漿の使用状況とその患者予後の検証のための多施設共同研究	共著	2019年3月	厚生労働省 平成30年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業報告書(広島県合同輸血療法委員会)	新鮮凍結血漿の使用理由とその臨床的効果を把握し, 安全で有効な輸血治療のためのエビデンスを構築するとともに, ベッドサイドでの安全性確保及び輸血の適応をチームで検討できる体制を整備することを本研究の目的として分析した。(pp.1-63, 藤井輝久, 田中純子, 国分寺晃 , 他)
23 (研究報告) 輸血検査, 輸血検査サーベイ報告。	共著	2019年11月	2019年度 日臨技臨床検査精度管理調査報告書。	全国規模で精度管理調査と実態調査の解析を行った。(pp.64-65, CD(8) pp.1-55, 国分寺晃 , 福吉葉子, 西岡純子, 三浦邦彦)
24 (研究報告) 令和元年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	共著	2020年7月	令和元年度 日臨技臨床検査データ標準化事業報告書	臨床検査データが様々な疾病の診断や, 健康管理に有効に活用されるためには, そのデータの信頼性が十分に保証される必要がある。全国規模の臨床検査データ標準化を目的に標準化委員として活動を行った報告書である。
25 (ガイドライン) 赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂3版)	共著	2020年12月	日本輸血細胞治療学会雑誌, Vol.66, No.6 ISSN 1881-3011	今回のガイドライン改訂の目的として乳児の赤血球系検査を中心に改訂作業を行った。新生児は免疫能が低く, 血液型検査ではオモテ・ウラ不一致になる頻度が高い。また最新の報告から, 生後4か月未満の児は, 不規則抗体の産生能が低い, などを含め, 児の採血量の削減を目的に赤血球型ガイドラインへ記載することにした。(pp.695-717, 奥田誠, 国分寺晃 , 他)
26 (研究報告) 県内における災害時等輸血用血液製剤供給体制の構築	共著	2021年3月	厚生労働省 令和2年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業報告書(広島県合同輸血療法委員会)	災害等により血液センターから輸血用血液製剤が供給できなくなった場合や, 医療機関の孤立等により製剤が速やかに届かず患者の救命に支障をきたす事態が生じた場合に備え, 近隣医療機関との血液製剤の供給連携の可能性を把握するとともに, 緊急時に地域の医療機関で協力して, 血液製剤の供給を可能とする具体的な仕組みを検討し, 構築することを目的として研究し, 実現可能な仕組みを指針として構築した。(pp.1-27, 藤井輝久, 高田昇, 田中純子, 国分寺晃 , 他)